

令和4年度 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和5年3月22日

事業所名：学びの広場じゃんぱ

保護者等数15名 回答数11

割合 73%

| 区分                 | チェック項目   | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | わからない | ご意見  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |
|--------------------|--|------|---------------|-----|-------|--|--|
| 環境・<br>体制整備        | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている  | 92%  | 8%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 2 職員の配置数や専門性は適切である   | 92%  | 8%            | 0%  | 0%    | こんなにも本格的にいろいろご指導いただけるとはびっくりレベルでした。感謝しかありません。         |  |
|                    | 3 活動空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている                           | 83%  | 8%            | 0%  | 8%    |  |  |
|                    | 4 活動空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている   | 92%  | 8%            | 0%  | 7%    |  |  |
| 適切な支援の<br>提供       | 5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で児童発達支援計画が作成されている   | 100% | 0%            | 0%  | 0%    | 以前他市では自分で適当に作っただけなので、プロの目線を入れて作成できてとても有意義な計画書だと感じます。 |  |
|                    | 6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドライン「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている  | 92%  | 8%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている  | 92%  | 0%            | 0%  | 8%    |  |  |
| 保護者への<br>説明等       | 9 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がされている   | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 10 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされている                     | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 11 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われている  | 92%  | 8%            | 0%  | 8%    |  |  |
|                    | 12 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができている   | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 13 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている   | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |  |  |
|                    | 14 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている  | 42%  | 17%           | 17% | 25%   |  | 父母の会のご紹介等、一部玄関先に掲示するなどの方法で紹介はしていますが、十分ではありません。ペアトシや保護者学習会も含め、保護者交流や支援については、今後の検討事項です。              |
|                    | 15 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている                        | 92%  | 0%            | 0%  | 8%    |  |  |
|                    | 16 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている  | 92%  | 0%            | 0%  | 8%    |  |  |
|                    | 17 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている                                     | 67%  | 8%            | 0%  | 25%   |  | HPを作成していますが、所内で積極的にご紹介できていないかもしれません。連絡は主にLINEの公式アカウントを使用しています。SNSを活用するなど、保護者様が利用しやすい方法を模索したいと思います。 |
| 18 個人情報保護に十分注意している | 92%  | 8%   | 0%            | 0%  |       |  |  |

|         |    |   |     |    |    |    |   |   |
|---------|----|---|-----|----|----|----|---|---|
| 非常時等の対応 | 19 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されている | 92% | 0% | 0% | 8% |   | 各マニュアルについては、玄関先の手に取りれる場所に置いてはいますが、変更点等の周知を丁寧に行いたいと考えます。           |
|         | 20 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている                                    | 92% | 0% | 0% | 8% |   | 非難訓練は、主に放デイの時間帯に行っています。児発については、保護者様に連絡LINEの返信というかたちでご参加いただいております。 |
| 満足度     | 21 | 子どもは通所を楽しみにしている   | 92% | 8% | 0% | 0% |   |   |
|         | 22 | 事業所の支援に満足している   | 92% | 8% | 0% | 0% | とてもありがたく、小学校に入ってもずっと指導を受けたい気持ちなのですが、放デイの時間などが勤務体系と合わず泣く泣く卒業なのが悲しすぎます。 |   |

※赤矢印は、昨年度の結果と比較して、大きく変わったものを表しています。矢印が付いていないものは、昨年度から変化が少ないか結果が同じものです。

(注釈)

1. 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。
2. 「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々のお子さんについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標および達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。
3. 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
4. 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた関わり方や声かけの仕方等を学びことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

令和4年度 放課後等デイサービス 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和5年3月22日

事業所名：学びの広場じゃんぷ

保護者等数25名 回答数22

割合 88%

| 区分          | チェック項目   | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | わからない | ご意見                                 | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標  |
|-------------|--|------|---------------|-----|-------|-------------------------------------|---|
| 環境・<br>体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている                            | 82%  | 14%           | 0%  | 5%    |                                     |   |
|             | 2 職員の配置数や専門性は適切である                                   | 77%  | 0%            | 0%  | 23%   |                                     |   |
|             | 3 事業所の設備は、スロープや手すりの設置などバリアフリー配慮がなされている               | 91%  | 0%            | 0%  | 9%    |                                     |   |
| 適切な支援の提供    | 4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されている           | 91%  | 0%            | 0%  | 9%    |                                     |   |
|             | 5 活動プログラム*が固定化しないよう工夫されている                           | 91%  | 9%            | 0%  | 0%    |                                     |   |
| 保護者への説明等    | 7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている                        | 91%  | 0%            | 5%  | 5%    |                                     | 今回『いいえ』に若干の回答がありました。支援の内容についての説明が不十分と感じておられるのであれば、大きい課題であると考えます。年2回の支援計画の見直しの面談では、『どう支援をするのか』だけでなく『なぜその支援が必要なのか』もしっかりと説明していきます。   |
|             | 8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている     | 100% | 0%            | 0%  | 0%    |                                     |   |
|             | 9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている                     | 91%  | 0%            | 0%  | 9%    | 面談は申し込めば可能だと思いますが、どこまで助言を求めているかが迷う。 |   |
|             | 10 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 46%  | 0%            | 0%  | 55%   |                                     |   |
|             | 11 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている。                 | 91%  | 0%            | 0%  | 9%    |                                     |   |
|             | 12 定期的に会報やホームページ等で、活動や業務の情報を子どもや保護者に発信している           | 14%  | 14%           | 5%  | 68%   |                                     | HPを作成していますが、所内で積極的にご紹介できていないかもしれません。連絡は主にLINEの公式アカウントを使用しています。SNSを活用するなど、保護者様が利用しやすい方法を模索したいと思います。  |
|             | 13 個人情報保護に十分注意しているか                                  | 50%  | 9%            | 0%  | 41%   |                                     |   |
| 非常時等の対応     | 14 緊急時等の対応マニュアルを保護者に周知・説明している                        | 77%  | 4%            | 0%  | 18%   |                                     | 昨年度より『はい』が増えているものの、まだまだ周知が不足している結果であると捉えています。各マニュアルについては、玄関先の手に取りれる場所に置いてはいますが、変更点等の周知を丁寧に行いたいと考えます。  |
|             | 15 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている              | 86%  | 0%            | 0%  | 14%   |                                     |   |
| 満足度         | 16 子どもは通所を楽しみにしている                                   | 64%  | 32%           | 5%  | 0%    |                                     | 昨年度も低かった項目ですが、今年度は更に下がってしまいました。学習活動が中心となっているため、お子様によっては、その日その日で勉強に気持ちが向かなかったり、通所を面倒と感じる日もあるかと思えます。少しでも前向きに取り組めたり、通所が楽しいと感じられるようにスケジュールや活動提供に工夫をしていきたいと考えています。年に数回はお楽しみの活動があったり、利用者様の中からけん玉や折り紙、迷路など、そのときの遊びの“ブーム”になるものが提案されることがあります。学習は個々に行うものの、そういった遊びでのかわりか、来所へのモチベーションになることも見られています。 |

|    |               |     |    |    |    |                              |   |
|----|---------------|-----|----|----|----|------------------------------|---|
| 17 | 事業所の支援に満足している | 91% | 9% | 0% | 0% | 送迎があるとありがたいです。いつもありがとうございます。 | 送迎については、今のところはサービス提供する予定がございません。時間帯によりますが、高学年さんや近隣にお住まいの場合に、自主通所の見送りや保護者連絡等の援助を行える場合もございますので、ご相談ください。 |
|----|---------------|-----|----|----|----|------------------------------|---|

※赤矢印は、昨年度の結果と比較して、大きく変わったものを表しています。矢印が付いていないものは、昨年度から変化が少ないか結果が同じものです。

(注釈)

\* 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。

令和4年度多機能型事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス） 事業所における自己評価表（公表）

公表：令和5年3月22日

職員数：正規5非常勤3

事業所名：学びの広場じゃんぷ

回答数：正規5非常勤3

回収率：100%

| 区分                                 | チェック項目  | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | 工夫している点   | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |
|------------------------------------|---|------|---------------|-----|---|--|
| 環境・<br>体制整備                        | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である                   | 88%  | 0%            | 12% | 利用者の強みや特性、発達のように合わせて、利用者の組み合わせを工夫している。また、個別の学習支援を底支えするためにも、集団の中で学び合う環境づくりを大事にしている。限られたスペースなので、活動や利用者の状況により、環境を整備している。 |  |
|                                    | 2 職員の配置数は適切である                                | 50%  | 38%           | 12% | 就学前から小学校につなぐ、小学校から中学校につなぐところを児童、放デイで相互に見合う。また担当制を基本としながらも、相互に交流できる良さを蓄積してきている。  |  |
|                                    | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている            | 100% | 0%            | 0%  |   |  |
| 業務改善                               | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している | 63%  | 37%           | 0%  | 支援計画の検討と共に、日常の支援中での交流を大事にしている。日々の指導に追われ、十分にできていないこともあるが、どのようにすればできるかを試行錯誤している。  | 年2階の職員の個別ヒアリングや児童と放デイそれぞれの業務会議を行っているが、十分に結果が共有できていない面もある。情報を業務改善に実際に活かすためのシステム作りが必要と考えている。   |
|                                    | 5 アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている        | 100% | 0%            | 0%  |   |  |
|                                    | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している            | 100% | 0%            | 0%  |   |  |
|                                    | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている              | 75%  | 12%           | 13% |   | 第三者による外部評価は受けていないが、有識者から指導内容について意見や評価をいただいたり、研修や支援のあり方を地域の先生に発信したり、その交流の場に事業所を貸出すなど、施設や支援について見聞きしてもらえる条件づくりにつとめている。  |
|                                    | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している                 | 87%  | 13%           | 0%  | 指導者の専門的な内外の研修を、職員間で交流し、深めている。理解や支援経験に差があるが、知識や技術の伝達や共有がよりできたらいいと感じる。  |  |
| 適切な<br>支援の<br>提供                   | 9 子どもと保護者のニーズや課題を分析した上で、個別支援計画を作成している         | 100% | 0%            | 0%  | アセスメントスキルの向上が必要だと感じる。   |  |
|                                    | 10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している   | 75%  | 25%           | 0%  | さまざまなアセスメントを活用し、客観的な資料をもとにした子ども理解ができている。  | 適応行動の状況を図るアセスメントは使用していない。本事業所で活用しているアセスメント（知能検査・発達検査・読み書き検査等）は費用がかかったりアセスメントを受けられるところが地域に少ないこともあり、利用者にはアセスメントを受けておられない方もおられる。事業所で実施できるアセスメントについて、必要であれば保護者様と相談しながら行っている。 |
|                                    | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている                       | 100% | 0%            | 0%  |   |  |
|                                    | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している                     | 88%  | 12%           | 0%  |   |  |
|                                    | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している         | 75%  | 25%           | 0%  | (放)学校生活が子ども達に大きく影響してくるなか、学校の様子や学習内容を見通して計画することが多い。  | 休日は利用日に設定されていない。長期休暇も、平日と利用形態が変わらないため、大きな内容の変更はないものの、学校からの学習量が少ない時期に少し楽しいおやつにしたり、縁日遊びをするなど少し内容を工夫することもしている。  |
|                                    | 14 子どもに応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成している    | 100% | 0%            | 0%  |   |  |
| 15 職員間でその日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 88%   | 12%  | 0%            |     |   |  |

| 区分  | チェック項目                                       | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |
|---|--|------|---------------|-----|--|--|
| 適切な支援の提供                                  | 16 職員間でその日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している       | 75%  | 25%           | 0%  |  |  |
|   | 17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている   | 88%  | 12%           | 0%  |  |  |
|   | 18 定期的に事後評価を行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している         | 88%  | 12%           | 0%  |  |  |
|   | 19 療育・創作・交流・余暇支援の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている       | 88%  | 12%           | 0%  |  |  |
| 関係機関や保護者との連携                              | 20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に最もふさわしい者が参加している      | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 21 学校との情報共有、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている | 75%  | 25%           | 0%  |  |  |
|   | 22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている |      |               |     |  | 医ケア児は、利用者にはおられない。  |
|   | 23 就学前に利用していた事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている         | 75%  | 25%           | 0%  |  | 先方の状況によるが、必要があれば積極的に関係者会議を開催していただけるよう、相談支援に依頼させていただいている。   |
|   | 24 障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、情報を提供している             |      |               |     |  | 利用が中学生までのため、そのような利用者がおられない。  |
|   | 25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関の助言や研修を受けている  | 56%  | 22%           | 22% |  | 発達障害の専門機関の助言は受けていないが、臨床発達心理士や特別支援教育士といった資格に関わる研修やLD関連の協会や医療機関が実施する専門研修は、各々、職員が受けている。   |
|   | 26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない地域の子とも活動する機会がある    |      |               |     |  | 乙訓地域の療育は、並行通園タイプ（普段は保育所や幼稚園に通い、週1回療育に通う）であり、本項目が示唆するインクルージョンの機会提供は、基本的に本事業所で行う必要はないと考えている。放デイについても、地域の小中学校に通う方が利用対象のため、機会提供の必要がない。 |
|   | 27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している                   |      |               |     |  |  |
|   | 28 日常的に保護者と子どもの発達の状況や課題について共通理解を図っている        | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
| 29 子育て支援として、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 63%  | 25%  | 12%           |     | ペアトリーのインストラクター講習を受講し、インストラクター経験のある職員がおり開始できる状態ではあるが、療育・放デイの多機能型であり、開所時間はほぼ利用者がおられる状態のために、スペースとして、保護者の学習会やペアトリーができる場が確保しにくい。運動グループの中で保護者向けの学習会を設けたり、グループ療育の中では話をする場を設けたりしている。 |  |
| 保護者への説明責任等                                | 30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている          | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 32 子どもや保護者からの苦情について、迅速かつ適切に対応している            | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 34 定期的に会報等を発行し、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している    | 63%  | 37%           | 0%  |  | LINEのオフィシャルアカウントを使って、アナウンスしている。  |
|   | 35 個人情報に十分注意している                             | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている       | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている        | 50%  | 25%           | 25% |  | 地域との具体的な交流は行っていない。   |
| 非常時等の対応                                   | 38 緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している     | 75%  | 25%           | 0%  |  |  |
|   | 39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている        | 100% | 0%            | 0%  |  |  |
|   | 40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている        | 88%  | 12%           | 0%  |  |  |
|   | 41 身体拘束について、保護者に事前に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している  | 63%  | 37%           | 0%  |  | 個別支援計画上、身体拘束が必要な利用者がおられない。   |
|   | 42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている      | 75%  | 25%           | 0%  |  |  |
|   | 43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している                 | 63%  | 25%           | 12% |  |  |